

令和元年度（平成31年度） 学校評価報告書

〔達成値〕 A:十分満足である B:ほぼ満足できる C:改善が必要である

益田翔陽高等学校

学校重点目標	分掌	重点目標	具体的取組事項	評価指標（到達したい状況・状態）	達成値	自己評価（反省及び次年度への課題等）	評価値 A,B,C	学校関係者評価
挨拶や時間厳守等、社会で通用するマナーを身につけた生徒の育成	生徒指導部	校外で積極的に挨拶をさせる	生徒会、風紀委員会、教職員を中心に、日頃から積極的に挨拶を交わす。PTAと協力し、各学期にあいさつ運動を行う。	日頃から学校内・外で、あいさつができていると答えた生徒の割合と積極的に挨拶をしたと答えた教職員の割合	B 96.6%	ほぼすべての生徒が学校の中で挨拶が出来るというのは本校の良さの一つであると感じている。校外でもっと積極的にあいさつができるようになるとより良くなると思うので継続して指導していきたい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は全体的に積極的な生徒が多いが、全くない生徒も見受けられるため、継続的な取り組みが必要と思います。 ・実際にあいさつ運動へ参加させていただきましたが、全体的によくできていると感じました。それ以外での場面では、部活動によって差があるのかなと思います。頭髪・頭髪のルールはきまりがあることからその好奇心で善し悪しの理解ではなく、まだまだ子供なのかなと思います。あいさつや、言葉遣いに関して、家では強く言っていますが、校内の先生との親しみだからこそ気が緩むのかなと思います。 ・学校訪問した時の生徒さんの挨拶は、とても気持ちがいいので、継続してほしいと思います。先生方と生徒さんの評価にギャップがあることは、仕方ないと思います。子供はいい評価をしたいという甘くなると思いますから、高校時代の学校での生活は社会に出てから本当に大切なので、先生方には、頑張ってもらいたいと思います。 ・文化祭などで、学校へ行ったときなど、きちんと挨拶できている。 生徒としてそれでも頑張っていると思っている。しっかりとどういこうかに差があるのではないかと。学年が上がるごとにできるようになっているのがよい。 ・一部で教職員C評価が目立つ。客観的、総合的な分析が必要。学年部としての取組は如何であったのか。学科、学年、部活動（タテ・ヨコ・ナメ）の生徒指導が求められる。市中での生徒の様子は問題ない。 ・それぞれ風土に関係すると取り組みは細かく対応されており、継続を望みます。その中で到達点の共有が大切だと思います。先生と生徒で同じ到達点を見つめ、成せていない事についても共に原因（真因）を追求し、改善していく事も大切感じます。
		社会に出て通用する頭髪服装で学校生活を過ごす	定期的に頭髪・服装検査を実施し、事後指導を徹底する。全教職員で日常的に指導を行う。	頭髪・服装規定を守っていると答えた生徒・保護者と、日頃の指導ができたと答えた教員の割合 頭髪服装検査で再検査にならなかった生徒の割合	B 88.7%	ほとんどの生徒がしっかりとルールを守り取り組んでいる中で一部の生徒の繰り返しが多く見られた。教員の指導にも差がありなかなか学校を挙げての取り組みができなかった。ルールの変更も含めて来年度に向けて考えていきたい。		
	寮務部	規律ある寮生活を確立する。 1. 時間を守る 2. 整理・整頓をする	寮の生活時程に従って行動する中で清掃および片付けを丁寧にするように指導する。	寮生活において時間を守り、整理・整頓ができたと答えた生徒および指導ができたと答えた教員の割合。	C 86.3%	教員と寮生との間に、時間厳守に対する考え方のギャップが見られる。また、部活動やその他の理由で遅れる場合の報告、連絡が届いていないことも考えられる。次年度は報告連絡の徹底をはかりたい。(教員78%, 生徒91%)		
	1年学年部	基本的な生活習慣を育成する。 1. 時間を守る 2. 挨拶・返事・言葉遣い 3. 服装・頭髪	朝終礼や各授業の始業チャイムは、自席で着席して聞かせる。	始業チャイムを自席で着席して聞くことができたことと答えた生徒および聞かせることができた教職員の割合	生徒:A 96.3% 教職員:C 84.4%	生徒の自己評価はとても高いが、教職員の評価は低く評価に開きが見られる。チャイムが鳴る前までのところでの授業の準備もできていないので、引き続き指導する必要がある。		
				校舎内・外において、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできたことと答えた生徒および、できていたと答えた教職員・保護者の割合。	生徒:A 95.5% 教職員:C 41.7% 保護者:B 85.9%	ここでも生徒の自己評価はとても高いが、教職員の評価は低く評価に大きな開きが見られる。保護者の評価は低くはないので、校舎内での挨拶指導を引き続き行う必要がある。		
	2年学年部	基本的な生活習慣を育成し、明確な進路目標を設定させる。 1. 服装・頭髪・挨拶・返事・言葉遣い。 2. 明確な進路目標を設定する。	日常の服装・頭髪の基準を守り、挨拶や言葉遣いがしっかりとできるよう指導する。	日常の服装・頭髪の基準が守られており、挨拶・返事・言葉遣いがしっかりとできていると答えた教職員・保護者の割合。	教職員 81.3%B 生徒 98.3%A	生徒と教員間で評価にずれが見られた。年度当初の学年会で「心得」をクラス掲示した上で、やり直し指導もしている。「やり直す」ことでできていないと判断するの、「やり直した」からできたことと判断するの、教員の評価が分かれたのではないかと。		
インターンシップ等の進路学習を通して、具体的な進路目標を設定させる。				具体的な進路目標を設定した生徒の割合。	A 90.5%	就職or進学の実定者数(迷いも含む):5名、就職希望者のうち職種未定者数:7名、進学希望者のうち専門分野未定者数:0名 (126-12)/126*100=90.5% 進路学習の成果が表れており要継続指導。		
3年学年部	服装・頭髪・挨拶・返事・正しい言葉遣いに留意し、社会のルールを遵守できる。	日常の服装・頭髪の基準を守り、挨拶や言葉遣いがしっかりとできるよう指導する。	社会生活に必要な規範に沿った服装、頭髪ができ、正しい言葉遣いや態度ができていると判断した教員の割合とできていると思う生徒の割合	生徒:A 90.9% 教職員:C 72.9% 保護者:B 84.2%	挨拶や言葉遣いについては生徒、教員とも出来ていると感じているが、服装・頭髪については、生徒と教員の意識に差が生じている。社会人としての身だしなみを客観的に理解出来るように指導する必要がある。			
			朝礼、授業開始時間や授業関係・進路関係の提出物の期限を守るよう指導する。	朝礼、授業開始時間が守られている。かつ、提出物の期限が守られていると判断した教職員割合と授業の開始時間が守られ、かつ提出物の期限を守っていると答えた生徒の割合。	生徒:B 87.7% 教職員:B 85.4%	登下校の時間や授業時間については守られているが、提出物については守られていないという意見が多い。		
自己理解を進め、他者への思いやりをさげなくできる生徒の育成	図書研修部	人権・同和教育HRの推進	生徒の成長段階やクラスの特徴に応じた指導案作成と研究授業を推進する。	学校は人権について考える機会を提供していると答えた生徒の割合	A 教員98% 生徒96.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き取り組みを継続して頂きたい。 ・情報共有に関しては、家庭でどれだけ子供たちとコミュニケーションが取れているかで、先生との共有・把握には差が出てくると思います。 ・目標がとてもいいと思います。“さりげなく”が難しいですが、保護者さんとの連携、言葉一つ一つを考えないといけない時代なので先生方よろしく願います。 ・特別支援教育の取組を継続強化する必要がある。人権・同和教育は体に染み込ませる教育だと思います。人を思い対等に視る心を育てるためにも丁寧に行ってください。 		
	保健相談部	相談活動の充実	校内での情報共有に努め、必要に応じて保護者・外部機関との連携をはかり、相談体制や支援体制を充実させる。	保健・教育相談に関して、実態に即した情報が発信されている。生徒の心や体の悩みについて応じてくれている、と答えた教職員・保護者の割合。	B 教員95.7% 保護者 81.7%	情報共有に努めたが、悩みを抱える生徒の数も多く、情報共有が追いつきにくい状況である。今後、保護者の方との連携も考えていきたい。		
基礎学力の定着や専門的な知識や技能の向上を図り進路実現にチャレンジする生徒の育成	教務部	授業力の向上と基礎学力の育成	「翔陽スタンダード」の定着をより一層図ることで、全教職員の授業改善を目指す。	生徒による「授業アンケート」の項目「授業内容について」の平均点。	B 3.37点	昨年度と比べ、学校全体の「翔陽スタンダード」を徹底させる雰囲気、下がっているかもしれない。次年度に向け改善策を検討したい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・難しい取り組み案件だと思えますが、よろしくおねがいします。資格は若い年代や取得できるときに集中することが大事だと思います。 ・専門技術校の特色としての資格取得の差があり、もう少し積極性が欲しい。将来的に、なぜ、資格が必要なのかをしっかりと導入する必要があると思います。 ・進学先、進学先、特に公務員については素晴らしい結果ができていると思います。資格取得も頑張っておられると思います。 ・授業改善にもうひと踏ん張りできるとよい。教員は多忙な中でよく頑張っておられると思います。 ・不断の努力と日々の熱意を大切に。「スタンダード」が形骸化しないように。資格挑戦、個別指導が奏功し、進路成果は見事。 ・それぞれの価値を感じているか？は大切だと思います。価値を感じ、そして楽しみながら挑戦する。そして到達した人を褒め称える。そういう一連の取組にすれば、おのずとはなされると思います。
	進路指導部	迅速な情報発信	求人情報・進学情報を迅速にクラスに伝達する。	進路情報が迅速に伝わったという教員・生徒の割合	教員:A 91.8% 生徒:B 87.6%	求人票に加え、就職・進学に関する過去の受験報告書もデータ化して共通フォルダにアップした。受験結果については、把握が遅れてアップするのが遅れてしまった。三担との連携を今以上に密にしたい。		
	電子機械科	学習意欲の向上	専門科目において基礎的な知識と技能の定着を図るとともに、資格取得に積極的に挑戦させ、多くの成果・成功を体験させ、学習意欲を向上させる。	資格検定の合格率および授業態度に関するアンケート結果	資格:C 63.9% 授業:B 82.1%	新たな資格も始めたが、全体的に受験者数は伸びていない。積極的に補習を行うなど、挑戦意欲を高める状況を増やしていきたい。授業に関する生徒評価は高めの数値となったが、授業への姿勢も改善していきけるよう継続的に指導していきたい。		
	電気科	進路意識の向上	将来を見据え、生徒が主体的に資格や学習に取り組むことができるように補習を実施する。	資格、検定に向けて真剣に取り組んだ生徒の割合	B 83.5%	補習は昨年以上の内容を計画的に行うことができた。その結果、合格者数の増加に結びついた。1年生の意欲が低いので、補習のやり方・自己学習の仕方についてさらなる工夫をして、意欲を持たせる必要があると感じた。		
	生物環境工学科	基礎学力の向上	個々の進路の実現のため、資格取得をはじめとする学習指導を充実する。	資格取得のための指導や個別指導、試験前の居残り学習や補習を行ったと答えた生徒の割合。	A 95%	今後も継続して、個別指導や居残り学習・補習等を行ってきたい。		
	総合学科	学力向上に努力する生徒の育成	生徒個々の能力、資質を十分に発揮させるとともに、これらを進路選択、人生設計に関連づけることができる態度を育成する。	資格、検定に2つ以上取得したと答えた生徒の割合。	B 79.5%	1年:2個未満0人、2個以上40人(MAX:9個) 2年:2個未満1人、2個以上32人(MAX:14個) 3年:2個未満22人、2個以上17人(MAX:7個) 89/112*100=79.5%(H30:57.3%) 昨年度と比べると向上した。3年生での資格取得の指導が課題。		
社会との多様な関わりを通して自分の特性を生かした社会貢献ができる生徒の育成	総務部	広報活動の充実	学校通信・学校新聞の充実、メール発信とホームページの更新を積極的に推進し、閲覧数の上昇を目指す。	メール配信、学校通信・学校新聞の発行、ホームページの更新が充分に行われたと答えた保護者・教職員の割合	C 89.4%	定期的な学校通信の発行やメール発信を行っており情報の提供が行われたと考える。未加入者へのさらなる啓発が必要と考える。ホームページの更新は、さらに各分掌、科、部活動等の協力を求める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会への貢献度合いはとても高く、素晴らしいと思います。 ・今後も継続的に行ってほしい。 ・掃除の評価が非常にいいと思いました。 ・保護者評価が総じて低下しているが、生徒に間にはさんだ情報提供には限界がある。H P の充実（メールでの更新通知）他のSNSも一考かと思う。 ・自己満足ではなく成果がポイントです。何を求めてその指標にしたのか？でどうなったのか？ここは十分に注視すべきです。
	保健相談部	清掃活動の徹底	生徒保健委員会からの呼びかけもふまえ、時間いっぱい清掃することを徹底する。	掃除監督として時間いっぱい清掃指導を行っている、掃除時間を守って掃除していると答えた教職員・生徒の割合。	A 教員100% 生徒94.3%	評価としては高い数値が出ているが、清掃時間中にうろついている生徒がいたとの連絡もあるため、引き続き清掃中の見回り、注意喚起に努めたい。		
	農場部	魅力ある農業教育の推進	地域連携・貢献事業、校内連携活動を推進する。	実施回数30回	A 30回以上	今後も地域連携・貢献事業、校内連携活動の推進して、魅力ある農業教育を行ってきたい。		